

元気の出る情報・交流誌

2024

11月

[No.825]

手をつなぐ

特集

権利擁護と意思決定支援

今月の問題

意思決定支援を軸にした住まいの選択を

ひびき

広瀬浩二郎 (国立民族学博物館教授)



一つ屋根の下でくらすせんせいと「わたしの自立」を考える [第2回]

自分で決めるということ Aju・永浜明子

わたしたちも言いたい グループホーム 山口奈津子 2

知りたい! あなたの見ている・感じている世界 [第8回] 宇宙人と天文学者 竹中 均 5

特集

権利擁護と意思決定支援

意思決定支援って何? 権利擁護って何? 福岡 寿 8

意思決定支援の方向性~障害者権利条約の総括所見を受けて~ 松崎貴之 12

施設における意思決定支援の取り組み 松原篤史 14

障害児の意見表明支援とは 鳥海直美 16

意思決定支援事例

家族 中川孝子 18

企業 綿引純子 20

特別支援学校 青木梨紗 22

本人の思い 24

意思決定支援のプロセス 鈴木敏彦 26

ひびき

「触る」ことで広がるコミュニケーション 広瀬浩二郎 28

今月の問題

意思決定支援を軸にした住まいの選択を 30

今月のオススメ 33

育成会だより

啓発キャラバン隊セミナーを開催しました 兵庫県・たつの市手をつなぐ育成会 34

くらしを支える福祉の制度 第46回

障害者差別解消法について その2 又村あおい 36

けんりって何?

鳥取県におけるあいサポート運動について① 米澤 章 38

あなたの街の育成会

障がいのある人たちとその家族が幸せに暮らしていける力の元になれる親の会

和泉市心身障がい児(者)手をつなぐ親の会 南 朋子 40

いっしょに話そう! 性のこと。第20回

妊娠のしくみについて伝える① 門下祐子 43

ニュースのじかん 45

枝元なほみのしあわせごはん いち、にっ、さん! [Lesson90]

テーブルを華やかに彩る デザートクレープ

表紙絵作者のプロフィール

■水木奏良 (みずき・そら) 21歳 ■山口県周南市 鼓澄苑 ■タイトル 幸せな子猫

■ひとこと お父さんとお母さんがほめてくれた。うれしそうな顔を見てとてもうれしかった。私は「幸せな子猫」です。

グループホーム

栃木県・日光市手をつなぐ育成会
特定非営利活動法人より道

山口奈津子

はちとう
8棟あるホームの散歩道に
にゆうきよ
入居しています。

ねんかんぎょうじ
年間行事で、

わたし
私が一番大好きなのは、

「バイクツーリング」ですよー

ドドドと言う音と、

風の気持ちよさ…



心配、不安の中、乗ってみると

パターとふきとばされて、

別世界です。

私達利用者全員、

まちどうしくて

たまらない…

又乗せてもらいたい!!



「わたしたちも言いたい」ではみなさまからのお便りを募集しています（宛先は48ページ）。
生活のこと、仕事のこと、暮らしのことなどふだん感じていることを書いてお送りください。

権利擁護と 意思決定支援

今日はどんな服を着よう、お昼は何を食べよう、など、
わたしたちは日々選択をして生活しています。
その経験の積み重ねが、重要な意思決定につながっていきます。
今年度の法改正では、意思決定支援の位置づけが重くなりました。
本人の意思を引き出し、大切にする支援がいま求められているのです。
この特集では、権利擁護・意思決定支援について、
現在の状況を含めわかりやすく説明し、
次に支援の事例や支援される側の声を紹介していきます。



イラストレーション 高村あゆみ

意思決定支援って何？ 権利擁護って何？

日本相談支援専門員協会 顧問 福岡寿

意思決定に向け、
心の動く場面を探っていく

幼少期から身寄りのなかったSさんは、小さい頃から入所施設で生活していましたが。食事や作業、入浴など、職員の声だけで行動することの多い日常で、何かに心が動いて自ら行動を起こすという場面に立ち会うことは、あまりありませんでした。

その頃地域では、自立支援協議会の活動の一環として、様々な事業所を定期的に見学する取り組みが行われていました。Sさんも、職員に促されてその取り組みに参加しました。何力所かの事業所を見学する中で、パチンコ台の解体作業を請け負う就労継続支援B型事業所で、心が動いたのか、Sさんの表情が少し変わっ

たそうです。

意思決定支援にあたっては、このような本人の表情や心の動きを見逃さないことが大切です。その後Sさんは、再びの見学、何度かの実習を経て、その就労継続支援B型事業所に通うようになりました。やや大きですが、こうやってSさんの人生が少し変わりました。

きっかけは、サービス管理責任者や現場の支援者が「Sさんの心が動く手がかりはないかな？」と探り、見学場所等を選定し、参加を促したことにあります。その支援により、初めてSさんが単に、屋間過ごせればよい場所ではなく、「心が動く、がんばれる」という「社会における、自分を活かす居場所」としての日常活動を自ら選択したのです。

支援者にできることは、本人の心が動く場面、そのための手がかりを探りなが

ら、「見てもらう↓体験してもらおう↓実習してもらおう」という自ら選んでいけるプロセスを本人に保障すること、そして、チームで本人の後をついていくことです。

たとえば保育園で、園児が「スコップ？水鉄砲？ どっちがいる？」と聞かれて、自身が手にしたものが、砂遊びや水遊びにつながっていくという積み重ね。

同じフライドチキンでも、Aコンビニ エンスストアのチキンか、Bコンビニ エンスストアのチキンか、二者択一の選択を自分でする。その結果「やっぱり○○コンビニのチキンの方がよかったな」「次は……」とその結果を自分で引き受けて 試行錯誤していくこと。

このように、小さい頃から、提示された選択肢に対して自らが決める。そして、自分が手にしたものが事実になる。こうした経験の積み重ねがその後の意思決定